

特集「恐竜時代を生き抜いたトカゲたち」

渡辺克典*

1966年、福井県の旧足羽郡美山町（現福井市）で、いわゆる「テドリリュウ」が発見された。石灰岩の裂か堆積物からの産出をのぞけば、これが日本初のトカゲ類化石の発見である。それからほぼ半世紀を経た今日、日本各地の白亜紀前期以降の地層からトカゲ類化石が次々と発見されている。

特に近畿地方では、白亜紀前期の非海成層と白亜紀後期の海成層から、それぞれ陸棲、海棲のトカゲ類化石が多く発見されている。発見とその後の調査には、規模や精度に差があるものの、それぞれの拠点となる博物館には、資料の集積をみることができ、第138回例会の会場となったきしわだ自然資料館も、個人所蔵の和泉層群産モササウルス類化石を、持ち主の方々のご厚意により寄贈いただく機会が増えた。これらの標本群を核として、2010年に常設展示の更新をおこない、モササウルス類のコーナー、を新設することができた。

いっぽう、爬虫類の分類や系統進化についての考え方は、「テドリリュウ」との再会が果たせない半世紀

のあいだに劇的な変化をみた。加えて、この半世紀のあいだに国内から産出したトカゲ類化石は、みな重要なものばかりである。そして今や、日本の古脊椎動物学研究者による国際学会誌への成果発表は絶え間なく続き、世界のトカゲ類の進化研究に、大きく貢献しているといえる。このような流れの中で、化石研究会として特別講演会を開催し、本特集号を組めたことは誠に喜ばしい限りである。演者の皆様をはじめ、例会の企画運営に関わって頂いた方々、本特集号に寄稿いただいた方々、ほかさまざまな形でお世話になった方々に、心からお礼を申し上げたい。

この特集号を編集している期間も、何人かの会員の方々から、現在進行中のトカゲ類化石研究の進捗状況についてお聞きすることができた。今後、さらなる研究の発展が期待される場所である。末筆ながら、研究を本職としない者が、このようなご挨拶を書かせて頂くことをお許しいただいた、化石研究会事務局はじめ役員の方々にお礼申し上げます。



きしわだ自然資料館 2 階常設展示のモササウルス類コーナー
(2011年12月1日に新設)

* 〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
Natural History Museum, Kishiwada City, 6-5 Sakai-machi, Kishiwada 596-0072, Osaka, Japan